

## 令和5年度 第2回山陽小野田市地域公共交通会議 議事録

令和5年8月29日(火)

### 1 協議事項

発言者	発言要旨
◆厚狭北部地域におけるデマンド型交通の運行について	
会長	事務局から説明いただいた。御質問や御意見をお願いしたい。
会長	質問がないようであれば、承認とさせていただきます。
◆厚狭高校通学便の運行について	
会長	事務局から説明いただいた。御質問や御意見をお願いしたい。
委員	通学便のJR厚狭駅での乗継利便性はどうか。
事務局	JR山陽線の下関方面行、新山口方面行それぞれの着時間を意識してダイヤ調整を行っている。
委員	ポンチョは定員33名となっている。雨が降った時など、多くの生徒が集中するが、積み残しについてどう考えているのか。船木鉄道のバス路線では、梅雨時期に車内が理科大生でいっぱい、乗車を断る状況にもなった。
事務局	利用状況によっては、必要に応じて船木鉄道に増便もお願いしたいと考えているが、運転士の負担もあり、高校、船木鉄道と丁寧に調整しながら適切に対応したい。 なお、厚狭高校からは、9月から始業時間が繰り下がると聞いており、結果としてうまく分散するのではないかと考えている。
会長	今回、4月からではなく10月からスタートなので、良い意味で効果は限定的と思う。利用状況を見て、必要に応じて対応を検討する必要がある。 ポンチョで積み残しが出るようなら、サイズアップも検討できるか。
委員	大型車両も校内に進入できないことはない。今も学校行事で送迎することはある。
委員	①厚狭高校の乗り入れを実現していただき、感謝申し上げます。厚狭高校周辺には眼科やスーパーがあるが、埴生等周辺地域の住民の需要はどうか。 ②埴生から厚狭駅止めに乗車された方が、通学便に乗り継いだ場合、200円の通し運賃で対応してもらえるのか。また、そうした利用に配慮したダイヤとなっているのか。
会長	①通学便は、早朝、夕方の運行であり、恐らくそうした需要はないと思う。 ②需要があるようであれば、バス事業者において検討いただきたい。
委員	白内障、透析の患者、免許返納した独居の高齢者など、福祉タクシーはあるが、バスもあれば日中の移動手段の充実、バスの利用促進につながる。今

	後検討してもらえるとありがたい。
会 長	現状で厚狭地域には、ねたろう号、いとね号、デマンドもある。御指摘の件は、そもそもバスが良いのかよく検討する必要がある。今回の件は、通学というかなりのボリュームの需要が見込まれたため、貴重な車両と人員を使って優先的に新設したものである。
委 員	日中のバスについて、いとね号は小学生の通学にも利用されている。余りに厚狭高校を優先しすぎるのも課題がある。市と協議して、バランスよく路線再編を行いたい。 2024年問題により、運転士の拘束時間が厳格化している。現状、昼間時間帯のダイヤ改善は難しい。
会 長	バス会社も余裕がない中、朝・夕2便ずつの運行していただいている。通学便は市、バス会社の努力の結果新設されたものである。本件については、承認いただいたということでよいか。 (拍手) ありがとうございます。
◆厚狭北部便の運行について	
会 長	事務局から説明いただいた。御質問や御意見をお願いしたい。
会 長	質問がないようであれば、承認とさせていただく。

## 2 報告事項

発言者	発言要旨
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ J R 美祢線の災害対応について</li> <li>◆ J R ローカル線の利用促進について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ J R 小野田線団体利用者乗車券購入補助金の対象要件の緩和について</li> <li>・ J R 宇部線・ J R 小野田線 スマホスタンプラリーについて</li> <li>・ やまぐちローカル線応援団について</li> <li>・ 子ども市民教育推進事業「鉄道教室」の開講について</li> </ul> </li> <li>◆ J R 厚狭駅における多機能トイレの整備について</li> <li>◆ 船鉄バス（公園通～理科大前間）の増便について</li> <li>◆ 企業寄附金を活用したバス停ベンチの整備について</li> <li>◆ 山口県賃上げ環境整備応援奨励金について</li> </ul>
委 員	<p>J R 美祢線の運休についてお詫び申し上げます。現在、被災原因について調査し、全容解明を行っているところ。今しばらくお時間をいただきたい。</p> <p>代行バスについて、通学に不便が生じていると県教委から要望をいただいております。8月21日から新ダイヤにより改善を図ったところである。運休によりご不便をおかけするが、引き続き改善を図ってまいります。</p>

委員	前回被災時は山口国体もあり、県の支援で復旧した。今回は、赤字路線の指摘を受けている中での被災である。美祢線の存在意義が問われていると思う。美祢線は観光や陰陽の連絡で大事な路線であり、早期の復旧をお願いしたい。
会長	まだJRによる調査中とのことで、議論を深めるだけの情報はない。この10年で被災したローカル線は運休のままとなっている。鉄道は公共インフラであり、これからの時代、地元の関与がないと復旧は難しい。
委員	JR小野田線について、従前から指摘しているが、なぜ小野田駅の1番線に入線しないのか。小野田線に利用するためには跨線橋を乗降しなければならない。市民が使いやすいように改善を図るべきである。
会長	JR小野田線の利用促進について、具体的なアイデアを出す段階にあるかと思う。ハードルはあるだろうが、一連の検討の中で考えてほしい。
事務局	JRとともに検討したい。
委員	理科大はスクールバスを導入する考えはないのか。
会長	理科大はかつてスクールバスであったが、その後様々な検討をされ、今の形に落ち着いたと聞いている。
事務局	理科大は過去スクールバスを運行していたが、維持が困難となったことからフリーパス制度を導入した。学生の利便性向上と同時に、公共交通の利用促進に寄与している。
委員	以前、福祉バスが実現できないのは財政負担が課題との話であった。理科大はなぜフリーパスを導入できるのか。
事務局	理科大のフリーパスについて、市の財政負担はない。
委員	福祉バス導入により人が乗車すればバス会社の収入が増える。市の財政負担は増えないはずである。
会長	福祉バスは社会全体にとっては価値があるが、その負担はバス会社にだけ負わせられない。もし福祉バスを導入するのであれば、議会等市の政策判断により、市が負担すべきである。
委員	高齢者にも目を向けて欲しい。
会長	高齢者の利用は否定していない。社会的な価値はあるが、市の政策判断が先ということである。 理科大生の乗車が増え、高齢者が乗車できないという話も聞く。鉄道の方が大量輸送に向いており、鉄道、バスともに有効活用していける方策を検討しなければならない。
委員	船木鉄道では、高齢者向けにシルバーパスを発行するなど、高齢者の負担軽減を図っている。
委員	鉄道教室について説明があった。中国運輸局でも同様の取組があるので、

	是非連携できればと思う。
委員	厚狭高校通学便のように、バスが高校に乗り入れる事例は全国的にも多くないはず。積極的にマスコミにアピールして欲しい。
会長	美祢青嶺高校で事例はあるが、重要な取組としてアピールして欲しい。

### 3 その他

発言者	発言要旨
会長	その他、各委員から御意見、御質問等あるか。ないようであればこれで閉会としたい。

閉会